

【報告要旨】国際契約法制部会第3報告

生成 AI と金融安定化・CBDC・中央銀行独立性を巡る一考察

久保田隆

生成 AI が法律実務、とりわけ金融安定化にもたらす影響については近時、内外金融当局や海外論壇を中心に研究が進みつつある。そこで本報告は、①生成 AI と契約実務の変容を欧州中銀（ECB）が論じた ESCB Legal Conference 2024 を元に紹介した後、②金融安定化を巡る論点（拙稿・国商昨年 11 月号）を再検討し、新たな論点として③近未来に導入予定の中央銀行デジタル通貨（CBDC）や「中央銀行の独立性」との関係を考察する。

第一に、契約実務との関係では、ハルシネーションなどのリスク管理と人間の専門知識と協力が不可欠なことが説かれ、日本の論壇とほぼ同方向の議論であることを確認する。

第二に、金融安定化との関係である。2024 年 5 月に FSB の Nellie Liang（米国）講演によれば、生成 AI はコスト削減と収益創出のメリットをもたらし得る反面、①個別金融機関のリスク（モデルの不適切な設計や誤用がもたらす不都合、外部からのサイバー攻撃やディープフェイクなど）、②金融システムのリスク（可視性の低い外部クラウドやベンダーに依存したり、相互接続する金融機関同士が同一データに依拠する AI モデルを採用することで、プロシクリカリティ（景気循環増幅効果）等を助長し、金融不安定化を招く可能性）、③競争環境の変化に伴うリスク、④消費者と投資家にとってのリスク（個人データのバイアスを永続化し、プライバシーやセキュリティの懸念を高めるリスク）を孕んでいる。この解決には、AI がどのようなデータを使用し、どのように判断を下したかを明確に説明できる仕組み（XAI: Explainable AI）の導入や、法的・倫理的課題への対応を進めることが重要であろう。契約法を巡る議論も ECB 他の様々な論稿と共に学会当日までに深掘りしたい。

第三に、新たな論点として CBDC や中央銀行独立性との関係を検討する。生成 AI は CBDC の効率性を向上させる一方、プライバシー保護、詐欺対策、セキュリティ強化、透明性確保の課題を抱えるが、具体的な対策をどう考えるか？また、生成 AI は、中央銀行のデータ分析能力向上を通じて客観的な政策判断を可能にする反面、政府による介入リスクや AI のブラックボックス化の課題を生む。中央銀行が独立性を維持するには、AI の透明性確保やセキュリティ強化、法整備に加えて、最終決定を人間が行う体制を如何に維持するかが課題となる。他方、各国中央銀行法をみると政府からの完全独立の例（ECB に関する EC 条約 130 条、スイス国立銀行法 6 条）はむしろ少数で（米国は慣習上の独立性）、政府の優位や協調・介入を認める例（日銀法 4 条、BOE 法 19 条、カナダ銀行法 14 条、豪州準備銀行法 11 条、中国人民銀行法 2 条）が多い上、法規定だけでなく実態運用も当然関係してくる。そこで、中央銀行と政府との最適な関係性も視野に入れて検討したい。

以 上